

2 学習指導の計画

(1) 教材研究の意義と観点

児童生徒の学習意欲を高め、充実した学習活動を展開するためには、児童生徒の実態、教材、指導の三つについて、教師が確かな見通しをもって授業設計をするなど、教師の日常における教材研究が極めて大切です。

- 教
材
研
究
の
觀
點
- ① 児童生徒の実態について ~日常の観察、事前調査から
 - 既習事項やこれまでの経験、定着の程度を把握する。
 - 児童生徒のものの見方や考え方、行動などの傾向を捉える。
 - 児童生徒一人一人の興味・関心や意欲、特性、学習集団の雰囲気を捉える。
 - ② 教材について ~児童生徒の立場に立って
 - 教材の系統性や配列、教材の構造や展開の仕方を考える。
 - 教材の構成要素の分析及び基礎的・基本的事項を明確にする。
 - 目標や児童生徒の実態に応じた教材の精選を図る。
 - 教材を開発したり、自作したりするなどの工夫をする。
 - ③ 指導について ~児童生徒に身に付けさせたい力を明確にして
 - 学校の教育目標や教材の本質などを踏まえ、指導の目標を明確にする。
 - 一人一人の知識及び技能の定着や思考力・判断力・表現力等を伸ばす学習活動を工夫する。
 - ・教材提示の方法や順番を考慮する。
 - ・学習場面に応じた学習形態(一斉学習、グループ学習、個別学習)を工夫する。
 - ・児童生徒に教えること、考えさせること、気付かせること、表現させることなどの内容を明確にする。
 - ・教材・教具の効果的な活用を図る。(ICTの積極的な活用)
 - ・児童生徒の多様な考えを引き出し、思考を深めるような発問を工夫する。
 - 評価の観点や方法等を明確にし、指導に生かす方法を考える。

(2) 年間指導計画

年間指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標や教育課程の編成方針に基づき、各教科・科目や各学年相互の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすることが大切です。

〈作成の手順〉

- ① 指導の目標を定め、学習内容を選択、配列する。
- ② 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、学習内容の理解や定着に要する総時間数や配列された学習内容ごとの指導時数を決める。
- ③ 主な学習活動や学習形態を考える。
- ④ 各指導の段階における教材・教具や資料を考える。
- ⑤ 評価の観点と評価規準及び評価方法を考える。

※指導後は、児童生徒の定着の状況や指導上の留意事項をメモし、次年度の年間指導計画の作成に活用する。

〈年間指導計画（様式例）〉

月	単元名・目標	時数	主な学習内容	教材・教具等	評価

(3) 単元（題材）の指導計画

単元（題材）の指導計画は、単元（題材）の実際の指導に向けて年間指導計画に盛り込まれた内容をより具体化したものです。児童生徒の実態を踏まえ、教科・科目の系統性や発展性を考慮して、単元（題材）の学習内容を適切に位置付けます。

〈作成の手順〉

- ① 年間指導計画の目標を明確にする。
- ② 観点別学習状況の評価の観点に基づいて、単元（題材）の目標を設定する。
- ③ 児童生徒の実態、活用できる地域の素材、施設などを把握する。
- ④ 単元（題材）の目標に基づいて、中心となる学習内容を明確にする。
 - ・その単元（題材）で児童生徒に身に付けさせる資質・能力を明確にする。
 - ・児童生徒の思考の流れを把握し、学習内容の配列などを工夫する。
 - ・指導時数を配当する。
- ⑤ 単位時間ごとに学習内容を具体化する。
 - ・チーム・ティーチング、体験的な学習、コース別学習などの具体的な指導体制・指導方法を考える。
 - ・指導場面を明確にして評価方法を考える。

(4) 学習指導案（一単位時間の指導計画）

学習指導案は、年間指導計画及び単元（題材）の指導計画に基づく、児童生徒の実態に応じた指導を展開するための一単位時間ごとの具体的な計画です。

学習指導案の作成に当たっては、個に応じた指導を具体化し、学習内容が確実に定着するように構成するとともに、学校の課題あるいは研究主題と結び付いた学習活動となるように工夫することが大切です。

学習指導案には、定められた形式はありませんが、一般的には、78ページから79ページにあるような内容について記述します。また、単元（題材）の指導計画を構造的に表したり、板書計画や児童生徒の学習状況、座席表などを記述したりする場合もあります。

＜作成の手順＞

学習指導案の作成のポイントについて、次のようなものが挙げられます。

- ① 年間指導計画の目標・内容などを学習指導要領で確認するなどして、具体的な文言にする。
- ② 具体化した目標や内容に基づき、中心となる学習活動を考える。
- ③ 前時までの学習内容の定着状況などを踏まえ、児童生徒の反応を予測する中で、どのようなところでつまずくのか、また、それをどのように克服させたらよいのかを検討する。
- ④ 上記①～③に基づいて、学習活動の流れと支援の内容や方法について考える。
- ⑤ 教材・教具、資料を準備して、その提示のタイミングと方法を考える。
- ⑥ 学習活動ごとに、個人・ペア・グループなど効果的な学習形態を考える。
- ⑦ 目標や内容に即して、評価規準や評価方法を明確にする。
- ⑧ 板書計画を作成する。
- ⑨ 次の学習への見通しを立てる。

＜授業前のシミュレーションの仕方＞

学習指導案や教材の準備ができたら、実際の授業に向け次のようなことを必要に応じて取り組むことが大切です。

- ① 学習指導案に基づき細案を作成し、指示や発問を具体化する。特に、導入や中心発問、本時のまとめについては最も適切な語句を選択する。
- ② 作業や話し合い活動に実際に要する時間を想定する。
- ③ 細案や板書計画をもとに一人で模擬授業を行い、板書や作業にかかる時間を確認する。
- ④ ワークシート等に模範解答を実際に書き、設問の妥当性や解答欄の大きさを確認する。
- ⑤ 先輩教師に学習指導案の内容を説明し、児童生徒の反応を予想してもらったり、疑問に思った点を質問してもらったりする。
- ⑥ 同じ学年の教師やT 2 の教師とともに、模擬授業を行う。
- ⑦ I C T を活用する場合、機器の動作を確認したり、児童生徒の座席から画面やスクリーンの見え方、音量等を確認したりする。

- ⑧ 発問や教材提示に対する児童生徒の反応を確認する。特に、本時の目標を達成することができない児童生徒への手立てを準備する。
- ⑨ 話合い活動等の言語活動を行う場合、ペアやグループの構成員を確認し、話合い活動がどのように進むかを予測する。必要であれば適切なグループ構成を考える。

○ 「教材分析」（主に教科書読解）

児童生徒の理解を促すためには、主たる教材である教科書を活用することが大切です。授業の準備を行うに当たって、次の手順で、教科書の分量や内容、記載の順序等を十分に分析します。

- ① 学習指導要領で単元の指導事項を確認する。
- ② 単元の指導計画に照らし合わせて、教科書の分量や記載内容の流れを確認する。
- ③ 児童生徒の思考を想定して、教科書の内容を確認する。
- ④ 単元や一単位時間の流れと、記載されている文章・絵・図・表・グラフ・写真等の位置付けを確認する。
- ⑤ 図表等を提示する際に、実物投影機等で拡大したり、焦点化したりする必要があるかを確認する。
- ⑥ 発展的な教材やコラム等を扱う場面や方法を確認する。
- ⑦ 本時の目標達成に効果的な補助教材等を準備する。
- ⑧ 模擬授業を行い、教科書の効果的な活用方法について、改めて確認する。

○ 「目標と指導と評価の一体化」

授業の準備が整ったら、目標と学習活動と評価が一体となっているかを確認します。教材、発問、教師の働きかけが本時の目標を達成するためのものとなっているかが大切です。

- ① 学習指導要領や単元の指導計画に即して、本時の目標は適切に設定されているかを確認する。
- ② 児童生徒が本時の目標を達成できる学習活動になっているかを確認する。
- ③ 教師の指導の結果、児童生徒が本時の目標を達成できたかを、確実に評価することができる評価規準や評価方法になっているかを確認する。
- ④ 評価の結果、本時の目標を達成することができない児童生徒への手立ては準備されているか。また、補充的な指導の必要性や発展的な課題提示の必要性を判断したり、次の学習の指導について、修正を加えたりする計画になっているかを確認する。

国語科学習指導案																													
チーム・ティーチングの場合は、主になる教師と副になる教師を記述します。		日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) ○校時 児 童 第4学年〇組 〇〇名 指導者 ○ ○ ○ ○																											
<p>1 単元名 読んで考えたことを話し合おう（使用する教材名「ごんぎつね」）</p> <p>2 単元について 「児童（生徒）の実態について」「教材について」「指導について」の3点にわたって記述し、教師の授業構想を明確にします。また、校内や教科の研究とのかかわりについて記述する場合もあります。</p> <p>3 単元の目標 児童（生徒）の立場に立った表現で記述します。その際、観点別学習状況の評価の観点を考慮して整理します。</p> <p>(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができます。 〔知識及び技能〕 (1)オ</p> <p>(2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができます。 〔思考力・判断力・表現力等〕 C(1)エ</p> <p>(3) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 〔思考力・判断力・表現力等〕 C(1)カ</p> <p>(4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力・人間性等」</p> <p>4 単元の評価規準 年間指導計画を基に、単元の評価規準を明記します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ</td> <td>①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)</td> <td>①進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像、学習の見通しをもつて考えたことを話し合おうとしている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 言語活動 印象的な場面をとらえ、「読書発表会」を行うこと。（言語活動例イ）</p> <p>6 指導計画（9時間扱い）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>単位時間の目標</th> <th>○主な学習活動 *部分的な言語活動</th> <th>評価規準・評価方法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学習のねらいを確かめ、「感想交流会」に向けた見通しをもつことができる。</td> <td> <input type="checkbox"/> これまでの学習を振り返り、文学的文章を読む際の視点について確認する。 <input type="checkbox"/> 本単元の学習のねらいや「感想交流会」の内容を知り、学習の見通しをもつ。 </td> <td> [知・技①] <u>音読</u> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を捉えて文や文章を読んでいるかを確認する。 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「『ごんぎつね』を読んで、感想交流会で考えたことを話し合おう」</td> <td> <u>単元（題材）についての見通し が明確になるようにします。</u> </td> <td> 評価方法は観察だけではなく、多様で具体的な評価資料を集めるようにすることが大切です。 </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶことができる。</td> <td> <input type="checkbox"/> 「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶ。 <input type="checkbox"/> 難語句について確認する。 *物語を読み、印象的な場面を選ぶ。 </td> <td> <u>[思・判・表①]</u> <u>観察・ワークシート</u> ・人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読んでいるかを確認する。 </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>場面の移り変わりや叙述に着目し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。</td> <td> <input type="checkbox"/> 叙述に即して場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などをとらえながら読む。 ・場面と場面を関係付けて読む ・登場人物の行動や会話から人物像を読む ・地の文や行動、会話から、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを読む *場面を選んだ理由を考えながら読む。 </td> <td> <u>[思・判・表①]</u> <u>観察・ワークシート</u> ・人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読んでいるかを確認する。 </td> </tr> </tbody> </table>				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	①進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像、学習の見通しをもつて考えたことを話し合おうとしている。	時間	単位時間の目標	○主な学習活動 *部分的な言語活動	評価規準・評価方法等	1	学習のねらいを確かめ、「感想交流会」に向けた見通しをもつことができる。	<input type="checkbox"/> これまでの学習を振り返り、文学的文章を読む際の視点について確認する。 <input type="checkbox"/> 本単元の学習のねらいや「感想交流会」の内容を知り、学習の見通しをもつ。	[知・技①] <u>音読</u> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を捉えて文や文章を読んでいるかを確認する。	2	「『ごんぎつね』を読んで、感想交流会で考えたことを話し合おう」	<u>単元（題材）についての見通し が明確になるようにします。</u>	評価方法は観察だけではなく、多様で具体的な評価資料を集めるようにすることが大切です。	3	「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶことができる。	<input type="checkbox"/> 「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶ。 <input type="checkbox"/> 難語句について確認する。 *物語を読み、印象的な場面を選ぶ。	<u>[思・判・表①]</u> <u>観察・ワークシート</u> ・人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読んでいるかを確認する。	5	場面の移り変わりや叙述に着目し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。	<input type="checkbox"/> 叙述に即して場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などをとらえながら読む。 ・場面と場面を関係付けて読む ・登場人物の行動や会話から人物像を読む ・地の文や行動、会話から、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを読む *場面を選んだ理由を考えながら読む。	<u>[思・判・表①]</u> <u>観察・ワークシート</u> ・人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読んでいるかを確認する。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度																											
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	①進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像、学習の見通しをもつて考えたことを話し合おうとしている。																											
時間	単位時間の目標	○主な学習活動 *部分的な言語活動	評価規準・評価方法等																										
1	学習のねらいを確かめ、「感想交流会」に向けた見通しをもつことができる。	<input type="checkbox"/> これまでの学習を振り返り、文学的文章を読む際の視点について確認する。 <input type="checkbox"/> 本単元の学習のねらいや「感想交流会」の内容を知り、学習の見通しをもつ。	[知・技①] <u>音読</u> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を捉えて文や文章を読んでいるかを確認する。																										
2	「『ごんぎつね』を読んで、感想交流会で考えたことを話し合おう」	<u>単元（題材）についての見通し が明確になるようにします。</u>	評価方法は観察だけではなく、多様で具体的な評価資料を集めるようにすることが大切です。																										
3	「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶことができる。	<input type="checkbox"/> 「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶ。 <input type="checkbox"/> 難語句について確認する。 *物語を読み、印象的な場面を選ぶ。	<u>[思・判・表①]</u> <u>観察・ワークシート</u> ・人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読んでいるかを確認する。																										
5	場面の移り変わりや叙述に着目し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。	<input type="checkbox"/> 叙述に即して場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などをとらえながら読む。 ・場面と場面を関係付けて読む ・登場人物の行動や会話から人物像を読む ・地の文や行動、会話から、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを読む *場面を選んだ理由を考えながら読む。	<u>[思・判・表①]</u> <u>観察・ワークシート</u> ・人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読んでいるかを確認する。																										

7 本時の学習

(1) 本時の目標と評価規準

目標	場面の移り変わりや叙述に着目し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。
評価規準	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像している。【思・判・表①】

(2) 本時の展開 (3~5/9)

過程	○主な学習活動 ・予想される児童の発言等	◇教師の主な働きかけ ＊留意点	評価規準・評価方法等 ▲努力を要すると判断される児童への手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返り、学習課題を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一番印象的な場面を探して音読したよ。 <p style="text-align: center;">印象的な場面を選んだ理由を考えながら読もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 選んだ場面を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 印象的な場面を選び、友だちに選んだ理由を添えながら伝えるための学習であることを確認する。 	<p>本時の目標と評価規準を明記し、評価を行う場面が分かるように、本時の展開の右側に記載します。</p> <p>導入にあまり時間をかけず、本時の学習課題を児童(生徒)に明示します。</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 選んだ印象的な場面について、これまでの読みを生かして、なぜ、そう感じたのか、理由を考えながら読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ごんの行動がおもしろくてごんの性格が分かる場面だから印象に残ったよ。 ・兵十がごんのことをどう思っているか、一番気になるところだから選んだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ これまで文学的な文章を読むことの学習でどのような読み方をしてきたのか想起させ、カードを提示しながら確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動（第1・2学年） ・場面の様子（第1・2学年） ・中心人物の性格や気持ちの変化（第3・4学年） </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 印象に残った場面とその理由をワークシートにまとめる。 ○ 選んだ印象的な場面について、どんなことに気を付けて読んだか交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・私は、ごんと兵十の言葉や加助との会話から、ごんと兵十の関係を考えながら読んだよ。 ・ぼくは、ごんの行動を兵十がどう思っているか、想像しながら読んだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 選んだ場面以外の叙述にも着目するよう促す。 ◇ 自分が気を付けたところとどのような違いがあるか考えながら交流するよう促す。 <p style="text-align: center;">本時の目標と正対するまとめる活動になるように留意します。</p> <p style="text-align: center;">全ての児童が本時の目標を達成できる手立てを記載します。</p>	<p>[思・判・表①] 観察・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像して読んでいるかを確認する。 <p>▲会話や行動を手がかりに、前後の場面を比べて読んだり、場面の移りわりにともなって変化する中心人物の気持ちについて、想像するよう促す。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流した内容を踏まえ、もう一度ワークシートを見直す。 <ul style="list-style-type: none"> ・となりの場面と比べてみよう。 ・ごんと兵十の言葉を集めよう。 ・うなぎをぬすんだときとあなの中で考えていたときのごんの気持ちを比べてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 交流で新たに気付いた印象的な場面を選ぶ理由について、整理し板書する。 ◇ ワークシートに気付いたことを書き加えるよう促す。 	

学習指導案を具体化するため、予想される児童の発言を記載します。